

ニュースレター

——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 6. 1~15. 6. 30>

6月5日

■米ペンシルベニア大の研究者らは、そううつ病の治療に使う物質が、アルツハイマー病の治療にも効く可能性があることをマウスを使った実験で明らかに。(日経)

■コーセーと東大大学院の新井洋由教授らの研究グループは、過酸化脂質を分解する「PAF-AH」と呼ぶ酵素が特に皮膚の表皮や皮脂腺などの細胞に多く含まれていることを確認。

(日経)

6月6日

■肝機能を手軽にチェックできる血液検査用バイオチップの試作に、独立行政法人の物質・材料研究機構(つくば市)と半導体メーカーのローム(京都市)が成功。(朝日・読売)

■昨年1年間に生まれた子供は過去最少の約115万人で、1人の女性が生涯に生む子供の数の平均(合計特殊出生率)も、1.32と過去最低になったことが厚生労働省が発表した2002年人口動態統計(概数)で明らかに。(各紙)

6月8日

■生体内で遺伝情報を読み取ってたんぱく質の材料を集める「運び役」となるL字型RNA(リボ核酸)が、細胞内で生成されるときにとる構造を東大の研究グループが解明。(日経)

6月12日

■血糖値を下げ、脂肪を燃焼させる特殊なたんぱく質を、東大病院の門脇孝助教授と山内敏正医師の研究グループが発見。(各紙)

6月16日

■鮮明な動画と音声で外科手術などの様子をインターネットを通じて低価格で高速配信し、遠隔医療に役立てるシステムを北大大学院の森川利昭講師(腫瘍外科)らのグループが開発。

(道新)

6月17日

■老人の痴呆の原因になるアルツハイマー病を治療する新しいワクチンを、国立療養所中部病院長寿医療研究センター(愛知県大府市)が開発。(各紙)

■糖尿病の大半を占める2型の糖尿病患者では、日頃速足で歩いている男性の方が、ゆっくり歩いている男性より死亡率が低いことが、米ハーバード大チームの研究で明らかに。(読売)

■毛髪の発毛に大きくかわる物質を、ライオン本社と徳島大医学部の共同研究チームが毛根の細胞の遺伝子を調べて明らかに。(読売)

6月18日

■みそ汁や豆腐などの大豆食品を毎日摂取している人は、乳がんの発生率が半分近くに下がるとの調査結果を、厚生労働省の研究班がまとめた。(日経)

6月20日

■健康な人の1,000人に4人程度がE型肝炎ウイルスを持っている可能性があることが、厚生労働省研究班(菊地秀・国立仙台病院副院長)の調査で明らかに。(読売)

お知らせ

禁煙啓発チラシについて

◇健康教育事業部◇

当会では、患者・地域住民への禁煙啓発・指導にご利用いただくためにチラシを3種類作成いたしました。医療機関、健康教室などで積極的にご活用ください。

ご希望の会員に無料で提供いたしますので、下記宛ご連絡ください。

なお、1回のお申込みは各100部までといたしますのでご了承ください。

また、ホームページにPDF（カラー版、モノクロ版）で掲載します。ダウンロードしてご利用ください。

① 未成年者向け

「中毒になる。勉強に影響がでる。肺が真っ黒になる。それでもキミは吸いますか？」

○早い年齢で吸い始める危険性などを解説

② 愛煙家向け

「1日1箱、ウン十年。病気は心配だが自分は大丈夫…と都合よく考えていませんか？」

○喫煙と疾病リスクなどについて解説

③ 女性向け

「女性特有の病気をまねく。幼い命まで奪う…。それを承知で吸い続けますか？」

○胎児、SIDSへの影響などを解説

未成年者向け



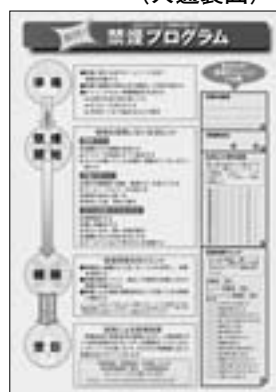
愛煙家向け



女性向け



(共通裏面)



※カラーA4版 コート紙

禁煙実行に導く
チャート式プログラム

<連絡先> 北海道医師会事業第二課
TEL011-231-1725・FAX011-252-3233
E-mail kenkou@office.hokkaido.med.or.jp

お知らせ

第16回（平成15年度）

健康スポーツ医学講習会開催要領

- 目 的** 近年のスポーツ人口の増加に伴い、発育期の幼児、青少年、成人、老人等に対する運動指導を含めて地域保健の中でのスポーツ指導、運動指導について、医師の果たす役割はきわめて大きい。地域社会において運動への関心が高まってきていることから、運動を行う人に対して医学的診療のみならず、メディカルチェック、運動処方を行い、さらに各種運動指導者等に指導助言を行い得る医師を養成するために、日本医師会認定健康スポーツ医制度に基づき健康スポーツ医学講習会を行う。
- 主 催** 日本医師会
- 後 援** 文部科学省、厚生労働省
- 期 日** [前期] 平成15年10月17日(金)・18日(土)
[後期] 平成15年11月21日(金)・22日(土)
- 会 場** 日本医師会館大講堂：東京都文京区本駒込2-28-16 TEL.03-3946-2121(代)
- 受講資格** 認定健康スポーツ医を希望する医師で都道府県医師会長の推薦する医師（日本医師会員）
- 受講人数** 前期・後期 各400人
- 受講料** 前期・後期 各12,000円
- 申込方法** ①受講希望者は都道府県医師会から申込用紙を受け取り、必要事項を記入の上、直接日本医師会地域医療第2課（〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16 TEL.03-3942-6138(ダイヤルイン)）に送付してください。FAX、電話、申込用紙をコピーした用紙での受付はいたしませんのでご注意ください。
②申込受付期間は前期・後期ともに、8月1日～31日までとしますが、受付は先着順に行い、定員になり次第締め切ります。
③締切り後、受講予定者に受講料払込用紙を送付しますので、9月15日までに指定の払込用紙で受講料を払込んでください。ただし、受講料払込後にキャンセル、欠席されても返金はいたしません。
④受講料の払込確認後、受講票を送付しますので、講習会当日必ず持参してください。
※申込用紙は、北海道医師会事業第三課（TEL011-231-1726）宛ご請求ください。
- 修了証** 前期2日間受講された方には前期修了証を、また後期2日間受講された方には後期修了証を後日交付いたします。なお、前期・後期ともに各2日間を分割した部分受講（2日間のうち1日、半日等）は認めておりませんので、必ず各2日間受講してください。前期と後期の修了証をお持ちの方は、日本医師会認定健康スポーツ医の申請ができます。申請手続については、北海道医師会事業第三課にお問い合わせください。
- その他** 次の医師は健康スポーツ医学講習会と同等以上の講習を受講修了しているとみなし、日本医師会の健康スポーツ医学講習会を受講しなくても、認定健康スポーツ医の申請ができます。認定申請の手続きについては、北海道医師会事業第三課にお問い合わせください。
①日本整形外科学会認定スポーツ医（ただし、認定番号4001番以上の医師に限ります）
②日本整形外科学会スポーツ医学研修会総論A修了者
③日本体育協会公認スポーツドクター
④日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会基礎科目修了者

日 時	講 習 内 容
10/17 09:30~09:50	挨拶：坪井 栄孝（日本医師会長）
09:50~10:50	来賓挨拶：遠山 敦子（文部科学大臣）、坂口 力（厚生労働大臣） 1. 健康スポーツ医学概論
10:50~12:20	4. 内分泌・代謝系の運動生理とトレーニング効果 中嶋 寛之（日本体育大学） 佐藤 祐造（名古屋大学）
13:20~14:50	3. 呼吸・循環系の運動生理とトレーニング効果 藤本 繁男（大阪市立大学）
14:50~16:20	2. 神経・筋の運動生理とトレーニング効果 馬詰 良樹（東京慈恵会医科大学）
16:20~17:50	5. 運動と栄養・食事・飲料 小林 修平（和洋女子大学）
10/18 09:30~10:30	9. 心と運動 永島 正紀（山口病院）
10:30~11:30	6. 女性と運動 目崎 登（筑波大学）
12:30~13:30	8. 運動と年齢—内科系 河野 一郎（筑波大学）
13:30~14:30	7. 運動と年齢—整形外科系 青木 治人（聖マリアンナ医科大学）
14:30~15:30	10. 運動のためのメディカルチェック—内科系 武者 春樹（聖マリアンナ医科大学）
15:30~16:30	11. 運動のためのメディカルチェック—整形外科系 増島 篤（東芝病院）
11/21 09:30~11:00	12. 運動と内科—スポーツによる生理的变化と病的変化 小堀 悦孝（藤沢市保健医療センター）
11:00~12:00	17. 運動と外傷—頭部の外傷 関野 宏明（あい介護老人保健施設）
13:00~14:00	14. 運動と外傷—過労性スポーツ障害 鳥居 俊（早稲田大学）
14:00~15:00	15. 運動と外傷—骨・関節の外傷 竹田 毅（慶應義塾大学）
15:00~16:00	16. 運動と外傷—軟部組織の外傷 守屋 秀繁（千葉大学）
16:00~17:00	18. 運動負荷テスト 川久保 清（共立女子大学）
11/22 09:30~10:30	13. 運動と内科—突然死、熱中症 坂本 静男（早稲田大学）
10:30~11:30	19. 運動処方 太田 壽城（国立療養所中部病院）
12:30~14:00	21. 運動療法とリハビリテーション—運動器疾患 岩谷 力（国立身体障害者リハビリテーションセンター）
14:00~15:30	20. 運動療法とリハビリテーション—内科系疾患 小笠原 定雅（東京女子医科大学）

連絡先：北海道医師会事業第三課

TEL(011)231-1726 FAX(011)231-2632

e-mail: sangyo@office.hokkaido.med.or.jp

お知らせ

平成15年度高齢者問題セミナー 地域に生きる高齢者

日時 平成15年9月4日(木)
10時30分～15時30分(受付:10時)

場所 道民活動センタービル(かでの2・7)
4階大会議室
札幌市中央区北2条西7丁目
TEL 道庁代表011-231-4111

主催 財団法人 北海道高齢者問題研究協会
後援 北海道、札幌市、東藻琴村、北海道社会福祉協議会、札幌市社会福祉協議会
参加対象 福祉施設・団体職員・自治体関係職員、研究者、その他高齢者問題に関心のある方

定員 200名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

資料代 500円を当日いただきます。
ただし、当協会の賛助会員は(団体会員の場合、その関係者を含む)無料です。

申込方法 下記の申込書でファックス、郵送または電話で申し込んでください。
申込み締め切りは8月20日(水)です。

趣旨

地域のさまざまな生活環境で暮らす高齢者が、健康で生きがいをもって生活していくためにどのような支援や活動が展開されているのでしょうか。

今年は、高齢者の健康調査を30年にわたり続けてこられた札幌慈啓会病院顧問浦澤喜一氏に、その調査結果に基づき「高齢者の健康と地域特性」と題して基調講演をいただき、シンポジウムでは、高齢者の生活をさまざまな角度から支えるための施策を展開している地方自治体、高齢者自身の活性化とその力を社会に還元する活動の実践、自立して生きる高齢者、施設で暮らす高齢者と地域との関わりなどについて現況報告をいただきます。

高齢者の一人ひとりが多様な生活環境の中で積極的に生きるために、どのような支援や活動が実践されているのかを知り、高齢者の生活の質の向上に役立つためにその方途を探っていきます。

プログラム

午前部

10:00 受付
10:30 開会挨拶
10:40～ 基調講演
12:15 「高齢者の健康と地域特性—東藻琴村高齢者の30年間の健康調査からわかったこと—」
講師 札幌慈啓会病院顧問 浦澤喜一氏
(北海道老年医学研究協会会長)
座長 北海道浅井学園大学教授 三谷鉄夫氏
(北海道高齢者問題研究協会理事・運営委員長)

12:15～ 休憩・昼食

午後部

13:00～ シンポジウム
「地域に生きる高齢者—一人ひとりが個性的な生き方をめざして—」

司会 北海道総合研究調査会
常務理事・企画室長 五十嵐智嘉子氏

シンポジスト

栗山町助役 高倉 淳氏
NPO法人シーズネット 理事長 岩見太市氏
北広島市シルバー人材センター
会員 出雲 毅氏
老人保健施設セージュ山の手
事務長 吉岡康子氏

14:45 意見交換・質疑応答

15:30 閉会

その他 ①受付は4階大会議室前で行います。

②会場周辺での駐車はできませんので、自家用車でのご来場はご遠慮く

だい。

- ③昼食用の弁当を600円で斡旋します。ご希望の方は申込書にご記入ください。

- ④お問い合わせ

〒060-0042 札幌市中央区大通
西6丁目 北海道医師会館5階

財団法人北海道高齢者問題研究協会

TEL 011-222-6727

FAX 011-222-6950

ファックス送信書

<送付先> 〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館5階
財団法人北海道高齢者問題研究協会

FAX 011-222-6950

平成15年度高齢者問題セミナー参加申込書

申込代表者名

住 所

所 属

連絡先TEL ()

—

FAX ()

—

氏 名	所 属 ・ 職 名	賛助会員・非会員別	弁当の注文
		会員・非会員	有・無
		会員・非会員	有・無
		会員・非会員	有・無
		会員・非会員	有・無
		会員・非会員	有・無
		会員・非会員	有・無
		会員・非会員	有・無

(どちらかに○をつけてください)

お知らせ

日本プライマリ・ケア学会 第14回生涯教育研修講座

「女性の視点を臨床に生かす」

医療現場において患者さんの視点は、医師－患者関係に大きな影響を及ぼします。日常臨床においても女性患者さんの方が多かったり、女性特有の疾患や症状表現も存在します。また、かかりつけ医に小児を連れて来るのは多くは母親で、重要な情報提供者でもあります。今回の研修講座は女性の視点・女性への対応を臨床に生かすべく企画をいたしました。多くのご参加をお待ちいたしております。

日 時：平成15年9月28日(日)

午前10時～午後4時30分

会 場：東京医科歯科大学5号館4階講堂
(JR御茶ノ水駅より徒歩3分)

参加会費：会員10,000円、非会員15,000円（資料・昼食代を含む）参加費は前もって郵便振替（00180-6-75568 日本プライマリ・ケア学会）でご納入ください。参加費のご納入をもって参加申し込みとさせていただきます。（定員300名）

なお、お振込の確認後10日前後で参加証（はがき）をお送りいたします。参加証がお手元に届かない場合は事務局までご連絡ください。

(敬称略)

プログラム (司会) 医療研修委員会委員

矢沢一博・館 泰雄

10:00～10:10 学会長挨拶

日本プライマリ・ケア学会会長 小松 真

10:10～11:10 「働く女性のウェルネス・チェックポイント」

NTT東日本首都圏健康管理センタ

東京健康管理センタ南方面所長

荒木葉子

11:10～12:10 「女性患者の考える・こんなクリニックあったらいいな～選ばれるクリニックでわかった増患・定着のポイント～」

HCRM研究会代表幹事 和田ちひろ

12:10～13:10 昼食

13:10～14:10 特別講演「卒後臨床研修とプライマリ・ケア」

厚生科学審議会委員

国立国際医療センター総長 矢崎義雄

14:10～15:10 「乳腺外来・臨床のポイント」
JR東京総合病院外科 川端英孝

15:10～15:20 休憩

15:20～16:20 「女性に多い関節リウマチ・膠原病の初診から最新治療まで」

都立駒込病院アレルギー膠原病科部長 猪熊茂子

16:20～16:30 閉会の辞

※本講習会は、日本プライマリ・ケア学会認定医研修講座（認定医更新10単位）として認定されます。また、日医生涯教育制度講習会参加認定シール（3単位）を交付予定。

連絡先 日本プライマリ・ケア学会

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-14
江畑ビル4F

TEL: 03-5281-9781 FAX: 03-5281-9780

URL: <http://www.primary-care.or.jp>E-mail: pc@primary-care.or.jp